

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 1

平成23年7月25日発行

発刊元：まつざかわかみなと（非営利活動団体）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317 - 6621 FAX 3317 - 6620

VOL.6

プロジェクト学習はじまる ショップとアートでアイデア談義！

7月11日
昼コース

昼コース第4回目。今回は、前回決めたゆるやかなチームわけであるショップとアートの2つのチームに分かれてのアイデア談義が本格的にはじまる回。活動にとりかかる前に、松田さんよりアドバイス。これから中心的になってくるのは、ショップとアートという2つの切り口を通して、「自分たちの持ち味」をどう外に発信していけるか、ということ。ただ、それを他の誰かに伝えていくにあたっては、より分かりやすかったり、一緒にできるような形であったりと、「持ち味を変容」させる必要がある。ショップであれば、ワークショップ形式で一緒にものづくりをし知恵や技も伝えるとか、商品となるものが、いったいどんな素材で、その素材は何から作られているのかの「レシピ」もつけて提供するようなことが考えられる。アートであれば、今回は巨大なハリポテを作るけれど、自分たちが込めた「思い」をより分かりやすく表現したり、その作り方の過程を伝えることだって、動的なアートだと言えそう。故井上やすし氏の言葉に、「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く！」という名言があるけれど、どんなに深く大切なことでも、相手に伝わらなければ意味がない。どんな場や方法をとったら、相手により興味を持ってもらったり、伝えるときのおしゃべりに花が咲いたりするのか。それをみんなで考えあい、模索していくのが今後の大きな視点になるのだろう。その視点の答えに「大人塾スタイル」のようなものが生み出せたら、すばらしい（記事：川上）

ショップチーム

それぞれが持ちよった素材をみながらみながら今後の方向性について考えあっていた。特にここに集まったメンバーの持ち味をどう外に生かしていけるか、という視点から、まずは阿佐ヶ谷の商店街をめぐり、お店で空いているスペースを間借りできないか交渉してみることに。そこが発信できる場になったら、今後の活動はさらなる展開になること間違いなし



アートチーム

ハリポテ経験者の話を聞きながら、何をつくるかアイデア談義。さまざまな意見がでたが、最終的に、「静かにしてほしいピンクのナマズ」と、思い思いの人や建物を入れ込んでいく「地球」の二つ。どちらも大きさは1～2mのもの。巨大なものづくりが、人と人の関係にどう関わるだろうか？



コラム 発想する！タ・ネ

「ハンズインカフェがコミュニティを生む？」

今回の主題は、講座タイトルでもあり、講座内でも話がaggっている「コミュニティ」という言葉の意味合いについて。この言葉自体の定義はとっても幅広く、国内外を問わずなんと現在 93 の定義があるらしい。そもそもの語源に立ち返ると、com(一緒に、ともに、共同で)+munis(分担して)であり、人びとが共同の状態にあるということになる。このcomというのは、company(com+pan 一緒にご飯を食べることから仲間を意味する)や、communication など、人と人が関わるこの言葉にたくさん使われている。

community の日本語訳はというと、現代ではみなさんご存知のとおり、「共同体」とか、「自治組織」などと訳されている。なんとも...わかったようで分からない日本語である。

ここでさらにつっこんで、そもそも日本に英語文化が入ってきた江戸の末期、この community にどんな日本語が当てられたか、ご存知の方はいるだろうか？

正解は...モヤイ。この言葉自体、今ではほとんど聞かれない言葉であるのだが、お茶の世界で「おもやいで...」と使われたり、船の結び方で「舫結び」という言葉が残っている。モヤイとは「船と船をつなぎ合わせ、荒波にそなえること」を意味する「舫う」から派生した言葉で、人と人が一緒に何かをすること、モノを共有で使用すること、みんなで手を動かしながら一緒に仕事をする、などを意味する。つまり、community がはじめて日本語に訳されたときの意味合いに立ち返れば、松田さんの提案から現在実施している「ハンズインカフェ(手を動かしながらの話し合い)」活動が、そのままコミュニティを意味するのだ！（記事：川上）

台風が行方がちょっと心配な夜。しかし、大人塾夜コースはもちろん実施、20名の方が参加した。

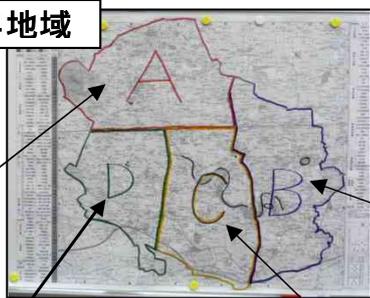
今回から3回、9月10日の「まち歩き」に向け、チーム決めてコース・内容の企画作りがスタート。まち歩きの意味って何？ただ一人で好きなのところをあるくのどう違うの？そんな疑問に広石さんが答える。「自分の住んでいるところや好きな場所では案外決まった道しか歩いていません。路地裏や意識して違う道を通ることで、知らない発見があります。また、まち歩きで自分が紹介をすることになると、自分はこういうことが好きだったんだ！と考え気付くことがあり、自分自身の再発見になります。さらに、他の人と歩くことやテーマを設定することで、日頃何気なく見ているものの背景を知るなどの新しい「ものの見方」を得ることが出来ます。つまり、実際に街の中に出て、人に伝えるというプ

ログラムを実施することによって、新しい見方や自分発見につながる。そういう意味でまち歩きを行います。」さらに、街に出たのなら、街の人との新しい出会いの機会にもしてほしい。今街で何が起きているか、どんな様子なのか直接話を聞き、色々なことを感じてほしい。そこから課題も見えてくるかも。そんな目的もあり、まち歩きコースの中に4つの「インタビュースポット」を入れることにした。各チーム2つに分かれ、途中交代で、お客さんとガイドを両方務める方法をとった。早速、居住地・興味ある土地などの希望をもとに4つのチームに分かれた(下記参照)。

街・自分・ものの見方の再発見に向けて、ワークショッププロジェクトがスタートした。チームでの行動がつながりの再発見になることも期待！ (記事:湊)

まち歩きの4地域

文化・歴史
教育・福祉・公共施設
御店
NPO・地域活動
の4つの場所を入れて
ヒアリングにいく



<まち歩きの可能性>

まちを新たに知る
振り返りの作業や交流を通して新たな「自分」を知る。
テーマ設定を通して新しい「物の見方」を知る

Aチーム(北)

文化をテーマ
(文士・アニメ・今昔)



Dチーム(西)

立教女学院・青葉インタs.
ミツヤ酒店・浴風会



Cチーム(南)

太田黒公園・区役所・角川庭園
鎌倉街道・他



Bチーム(東)

広まる・探る
(熊野・大宮八幡・他)



今月の大人“塾っ人”

大人塾に参加中の...イカした！大人たちに聞きました！

出身 自分の好きなのところ、嫌いなのところ 自分のつながりPR

愛宕 紀子さん
東京都
好き:人の話を聞くのが大好きなところ 嫌い:あまりにもアナログ人間なところ
好奇心いっぱい！人間大好き！なんでもお手伝いします

高津 市三さん
長野県塩尻市
好き:世話見のよいところ 嫌い:大ざっぱなところ
本を三冊書いており、特に浮世絵についての話なら何時間でも人前で話せます。

青山 昭さん
神奈川県(強いて言えば)
好き:機知に富んでいると思います。嫌い:ひとりよがりになりがち
子供と演劇が好きです。結びつけて何かアクションできればと思います。

吉本 登美子さん
神奈川県横須賀
好き:他人の話をじっくり聴けること 嫌い:消極的・自己PRが苦手
絵・写真等を観ることが好きです。異文化にとっても興味があります。

□すぎなみ大人“塾”してる？の発行にあたって□

この新聞は事務局スタッフ松坂・川上・湊の独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。